

普及活動検討会実施報告書

巨理農業改良普及センター
 実施月日：令和4年1月25日
 実施場所：巨理農改会議室

1 検討内容

No	検討項目
1 2	令和3年度普及指導計画について プロジェクト課題の取組状況について No1 次代につなぐ大規模法人の生産体制整備による経営の安定化 No2 新品種「にこにこベリー」導入定着によるいちごの安定生産 No3 「シャインマスカット」の栽培技術力の向上による生産拡大
3	令和4年度普及指導計画（案）について

2 検討委員の構成

(単位：人)

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者		生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	1
市町村	4	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	1

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント、評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
(1)プロジェクト課題の取組状況について No1 次代につなぐ大規模法人の生産体制整備による経営の安定化	4.6	<ul style="list-style-type: none"> 大型ほ場の整備に伴い、地域の担い手が組合を作るなどの法人化が進んでおり、本課題は大きく評価できる。 多くの生産団体が直面する人材確保について、定年制の導入、労務環境の見直し、さらにベースとなる収入源の見直しと安定化に向けた取組が一定程度成果を上げているようで、素晴らしいと思う。このような知見を他の組合などにも早く共有して欲しい。 農作業データの活用や専門家と連携した作業改善、就業規則の整備に加え、経営承継計画の作成に至るまで伴走型の支援が行えている。 課題解決に向け概ね成果達成。今後法人には労務量の平準化、バランスある構成員構成への取組を期待する。 システム活用による営農の効率化、就業規則や経営承継計画を作成しての従業員採用による人材確保等、新品目栽培への取組による農閑期の作業確保、大豆の摘心栽培による平均単収の向上、直播栽培による作業効率化等を通じ、順調に活動を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に震災後設立された土地利用型法人にとって、経営の継続や安定化は共通した課題であり、本取組の事例がモデルケースとなり、他の法人に波及できるよう努力いたします。 高度な指導については外部の専門家を積極的に活用しながら支援を行ってまいります。 本年実施した大豆の生産技術改善を検証し、次年度の栽培において改善する他、新規導入部門の野菜の生産についても安定生産に向けた支援を行いながら、水田を活用した園芸振興も推進してまいります。
N02 新品種「にこにこベリー」導入定着によるいちごの安定生産	4.6	<ul style="list-style-type: none"> 栽培管理のため個別巡回・資料提供、労力に適した導入モデル等の提案により着実に生産者・規模が増加している。 新品種の普及に留まらず、施設園芸の拡大にも繋がる取組で大きく評価できる。計画と活動で不整合な点はあるものの、普及に努めたと評価できる。結果的に目標を大きく超え、新品種の普及に大きく貢献できた。 導入と定着に成果が上がっていて素晴らしい。生産年内市場流通で、収入に結びついていることも分かり、今後ますます生産量も増えると思うが、消費者の評価も伴うようにこれからも頑張っていたきたい。 コロナ禍が続く中、指導ツールとしての普及センター通信は生産性向上に効果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、新品種の導入・定着に向け支援を続けてまいります。生産規模や習熟度に応じた適切な指導が出来るよう努めてまいります。 消費者に対する新品種の認知度向上に向け、関係団体と連携しながらPR活動等も検討してまいります。 今後は紙資料に加え、ウェブの積極的な活用も検討しながら時代に合った指導方法を模索してまいります。

<p>N03 「シャインマスカット」の栽培技術力の向上による生産拡大</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人気があり県内の需要に対して供給が足りていないことから、タイムリーな取組と評価できる。目標が明確なため、活動や成果に結びついている。育苗ハウスの有効活用や産地としての知名度向上など評価できる。 ・拡大という設定趣旨に沿っているが、今後は差別要素等、将来予測に向けた生産拡大と変化への対応も必要。 ・目標が明確で、生産者側も意識が向上しているので素晴らしい。また情報や技術を共有できるだけでなく、お互いの課題も共有できる場があること自体が意欲の向上につながるし、販路を持つにも（規格外品を加工に回すにも）『面』で取り組む方が強いので、一層頑張ってください。 ・シャインマスカットのブランド化に向けた取り組みとしてデザイナーとコラボした新たなデザインの構築に加え、新商品の開発等、新たなアクションを起こし産直施設での販売会等、成果にも繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術を中心に生産量増加に向けた支援を行うとともに、実需者へのニーズ調査、情報交換を行いながら、期待される産地の発展を支援してまいります。さらには、令和3年度に設立された「亙理・山元果樹産地協議会」を中心として、国の果樹関連事業等を積極的に活用しながら関係機関と連携した産地活性化を目指します。 ・作成した共通マークについては、パッケージへの活用に加え、のぼり旗等へのPR活用等も検討し産地力強化を支援してまいります。
<p>(2)令和4年度普及指導計画について</p>	<p>4.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの知見を活かしつつ、他の生産者にもメリットが生まれるように課題を設定されていて良い。 ・土地利用型農業での転作作物の新品種定着支援、いちご・果樹の後継者・若手生産者への技術支援、カーネーション生産技術の導入支援等により、持続可能な農業・産地形成の活動展開。 ・国の指針及び県の基本計画等に添った指導計画となっており、農家の課題に直結した取組となっている。また、計画に対する目標が明確で今後の活動に期待できる。 ・園芸王国みやぎを目指し、頑張りましょう。 ・いちごの環境制御ネットワーク構築は、JAとしても今後の営農指導上重要と考えており、全農を含めたシステム構築をできればと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、地域や農業者が抱えている課題の把握に努めながら、関係機関との連携を図り、計画作成を行います。 ・高度な環境制御による施設園芸に加え、水田等を活用した大規模露地園芸の展開により、「えんげい王国 亙理・名取」の構築を関係機関と連携し、目指してまいります。 ・いただいた意見を参考に、令和4年度の活動内容に活かしてまいります。
<p>その他</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・BCPやカーボンニュートラルに向けた課題や検討は率先して提案して欲しい。指針・方針の先取りとしても有効。 ・さまざまな業界で「SDGs」に取り組んでいるが、農業という産業での取組は間違いなく「SDGs」の取組の一つであるので、上手く表現していただきたい。 ・農繁期の作業競合もあるので一朝一夕に出来るものではないが、シャインマスカット等の栽培が普及センター管内の2市2町で広範な産地形成できれば面白いと考える。主食用米の需給状況から、今後も減反面積は増加傾向と捉えられ、育苗ハウスの有効活用をしつつ「儲かる農業」の一助になればと思う。 ・ここにこベリーやシャインマスカットと同様に消費者への展開を見据えた活動が重要。それが農業者の収入増と継承に繋がると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御助言ありがとうございます。いただいた意見を、令和4年度の普及活動に活かしてまいります。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する